

## 県産大豆をリードする産地を目指しましょう！ 夏期の技術対策・病害虫防除について

開花期から登熟期は、干ばつや多雨等の天候災害やウコンノメイガ等突発的な病害虫の被害を受けやすい時期になります。発生状況に応じてこまめな管理を行い、高品質大豆を確保しましょう。

### 1 排水対策の徹底と、干ばつ対策の実施について

#### (1)排水対策

まとまった降雨等による湿害を回避するため、排水溝の点検・整備等を行い排水対策を徹底しましょう。中耕培土後の溝や周囲明渠が排水口に連結され、十分機能するか確認を行いましょ。

#### (2)干ばつ対策

暗渠が設置されているほ場では、天候に応じて開閉することが重要となります。

まとまった降雨が無い限り暗渠を閉め、土壤水分を逃がさないようにします。

また、排水条件の有無にかかわらず、代表的なほ場には地下水位を目視できる縦穴を設けましょ。地下水位が70cm以下に下がる場合は、畝間かん水等で干ばつ対策を行いましょ。



縦穴施行の様子

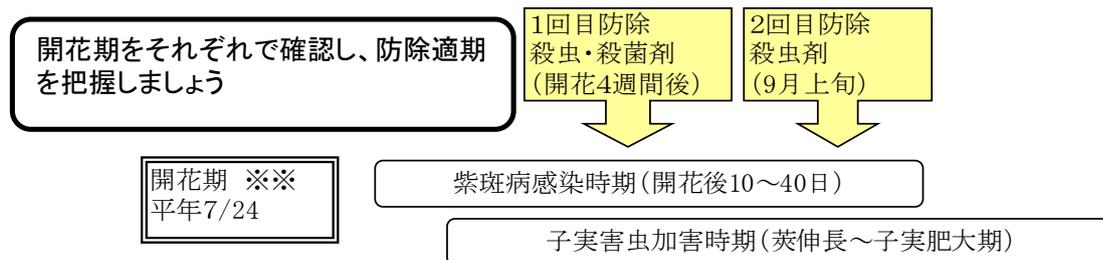


地下水位目視縦穴

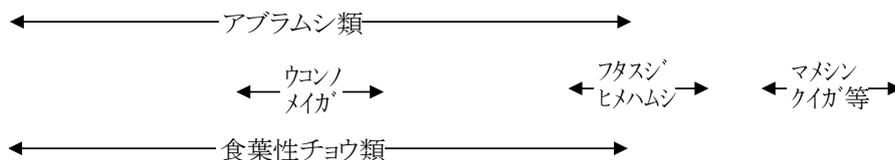
### 2 病害虫防除は万全に！

1回目の防除は開花期の4週間後、2回目は9月上旬に行います。例年エンレイの開花は7月24日頃になることから、1回目の防除は8月21日頃になります。

【紫斑病1回・殺虫剤2回防除による防除例※】



【害虫の発生に特に注意する時期】→発生が目立つ場合は臨時防除の検討を！



7月			8月			9月		
上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬

※ 紫斑病1回防除体系は、アミスター20フロアブルを使用する。他の薬剤を使用する場合は2回散布を基本とする。  
 ※※ 開花期:全株数の40~50%が開花始め(主茎上で1花でも開花した時)に達した日です。

商品名	対象病害虫	希釈倍数・使用量	使用方法	使用時期	本剤の使用回数	散布液量	アズキシストロピンを含む農薬の総使用回数
アミスター20フロアブル	紫斑病	2000~3000倍	散布	収穫7日前まで	2回以内	100~300リットル/10a	2回以内
		16~24倍	無人ヘリコプターによる散布			800ミリリットル/10a	

農薬使用の際は最新の登録状況やラベルを良く確認し使用しましょ。農薬は、平成27年6月10日現在の登録状況を掲載しています。